

	課題分析	授業改善策	評価
1年	○意欲的に発言したり、英会話の活動に取り組んだりしている。一方で、やり取りの場面では単語のみの答えが目立ち、主語と動詞を含む英語の文で答えることが十分ではない。 ○身に付けた知識をどの場面で活用したらよいか判断したり、技能につなげたりすることを意識付けなければならない。	○課題や定期考査の出題の仕方を工夫して、覚えたことを活用する機会を増やす。 ○基本的な単語・文法のテストを定期的に行い定着を図る。 ○生徒は日本語を英語に直訳しようとする傾向がある。既習事項を活用して表現する思考法を身に付けさせ、習慣化する。	
2年	○全体として、英語に対する苦手意識が高く、学習態度が受動的な生徒が多い。 ○文型（SVなど）や基礎的な文法ルールの定着度が低い。特に、三単現、複数形、一般動詞とbe動詞の区別、肯定文・疑問文・否定文の構造に混乱が見られる。 ○話す活動は楽しみながら積極的に行う生徒が多い。一方で発話内容は、2～3語文であったり、主語が一人称ばかりであったり、学年相応の文法が習得できていない生徒がいる。	○1時間の授業に4技能をバランスよく取り入れることで、授業にリズムを付ける。 ○生徒の学習態度が主体的になるように、単元のめあてが興味関心を引くものになるよう研究する。 ○「本時のめあて」を明確にすることで、授業に見通しを持たせるとともに、学習内容を平易にする。 ○「話す」において、既習内容を活用できるよう、トピックやデモを研究する。	
3年	○生徒は、文法事項においてbe動詞や代名詞など、基礎基本を理解できている。しかし、大半の生徒は、複数の文法項目を使用して英文を作成することに課題がある。 ○文法事項の用法などを積極的にとる姿は見受けられるが、作文や会話の場面になると積極的に取り組めない生徒がいる。 ○長文を読むことに対する苦手意識が強く、要約や課題に取り組めない生徒がいる。	○複数の文法項目が用いられた英文から、部分的に分けながらそれぞれの意味や用法を丁寧に解説する。次に、自分の考えに基づいて、複数の英文を作成したのち、それらの文を1文にまとめる練習を行う。 ○ブレインストーミングやマッピングなど、段階的に作文や会話につなげられるようにワークシートを作成し、作文や会話に対する苦手意識を軽減する。 ○机間指導を充実させ、その生徒に個別最適な指導・助言をするよう心掛ける。	